

2022（令和4）年度 第2回伊賀市図書館協議会議事録

開催日時：2023（令和5）年1月19日（木） 午前10時～11時15分

開催場所：上野図書館 2階 視聴覚室

出席委員：柴田会長、石橋副会長、岩佐委員、谷本委員、長久委員、西委員、松田委員、吉田委員

事務局：谷口教育長、滝川事務局長、東社会教育推進監、小林上野図書館長、中田主幹、大矢主任、村田

1. 挨拶：谷口教育長

挨拶：柴田会長

2. 議事

（1）

一事務局より資料1「2023（令和5）年度事業計画概要」についてを説明—

会 長：はい、ありがとうございます。今年もいろいろと計画しておりますので、ご意見ございませんか。いかがでしょう。はいどうぞ。

委 員：すみません。参考にお聞かせいただきたいと思うのが、企画展示というのが、今年度、ごめんなさい、前回欠席していたので、もしかしたら説明があったかもわからないのですが、企画展示というのは来年度、新たに力を入れてやろうとしているのか。

事務局：例年、毎年開催しています。

委 員：連携展示もですか。

事務局：連携展示も極力実施しています。

委 員：そうなんです。うちの図書館もそうなんですけど、他の市町の図書館もそうなんですけど、やっぱりその他の部局と連携するというのは非常に連携展示やりやすいみたいで、図書館的にはいろんな本があるので正直どのジャンルでも本をそろえることができるじゃないですか。で、当館の場合は県庁の職員とメールマガジンみたいなのを毎月配信して「こういうふうに連携展示ができます」みたいな「ブースがあります」みたいな、あと「啓発物配れます」とかっていうのを紹介していて、現に実際どこの課とこういうふうにやってますみたいなのを定期的に紹介して、何年かやっているんですけど、そうすると向こうから結構声がかかってきたりとかして、図書館としても相手のテーマに合わせて本を選んでくるんですけど、古い本でもテーマに関係があれば借りていってくれるので、書庫に眠っていた本が実は表に出せば借りていってくれるとか、結構いろんな発見とかもあって、うちは今4つくらい同時に進めているんですけど、もしスペースがあれば進めていくと図書館としては、非常にこう、なんて言うんですか本はたくさんあるし、協力し

やすい、良い取り組みなんじゃないかなと思って、今回見ていると、上野点字図書館とも連携している、人権もあるしということで、いろんなところと、特に観光とやるといいのかなと思いながら見ていました。ありがとうございました。

会 長：はいありがとうございます。連携展示のことをよく考えやんとということですが、他の部局との連携は積極的にやっていますよね。

事務局：はい。たちまちですねこの2月に忍者図書館としまして、2月の1ヶ月間、忍者のマネキンの人形を置いたりとかスタンプラリーを行ったりとかするんですが、その時にも企画展示コーナーには忍者の関係の資料を展示しようと考えています。それから、3月には今年度は文化財課の資料を文化財課と連携して展示する予定をしています。

会 長：新しい図書館ができれば場所はもっと広がるからね、展示する場所は。よく考えて広めていただきたいと。はいありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委 員：すみません。

会 長：はいどうぞ。

委 員：8月に高校生ビブリオバトル大会の展示ってあるんですけど、市内の高校生、各高校でビブリオ大会をされているということでしょうか。

事務局：伊賀地区大会として、例年、高校生の方を募集して、一つの会場で大会を行っています。ハイトピアや高校に集まって伊賀地区大会が行われ、その中で良かった生徒が県大会に上がっていくという。

委 員：そういう流れでされているんですね。

事務局：そこで紹介された本を図書館でも展示したり、過去に入賞した本を展示していこうと考えています。

委 員：私一度、上校に見に行かせていただいたことがあって、とても楽しかったんですけど、このビブリオバトルという言葉って知っている方は知っていると思うんですけど、知らない方は何って感じで思われている。言葉もちょっと難しいし。その楽しさっていうのが伝わらないと何のことやっていうことになるので、以前、図書館でも「一般の方のビブリオバトルの大会もされたらいいね」と言わせてもらったことがあるんですけども、その言葉を先ず知らないと何かということもわからないと思うので、その辺の説明も含めて、また浸透したらいいなという。

本当に、私なんか本あまり好きじゃないんですけど、読まないんですけど、これを聞いてると本当に読みたくなることが感じられましたのでよろしくお願いします。

会 長：はい、ありがとうございます。ビブリオバトルという言葉から説明しなきゃいけないということですね。かなり広まってきていますがね。もともと言い出したのが立命館の先生がビブリオバトルって言葉を今でも使っていますよね。

確かにバトルという言葉はちょっと良くないかもしれませんね。

委 員：知的書評合戦でしたっけ。

会 長：はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

委 員：来年の事業計画ということで見させていただいたんですけども、だいたい例年とや

ってることは変わらずということで、今度の新しい図書館のコンセプトの中ににぎわいの創出というのも入っていると思うんですけども、そういった部分の事業計画というのは前倒してやるというあれはないのでしょうか。

事務局：失礼します。前にもそういうご意見を、平行して新図書館に向けてというご意見をいただいていた中に、キッチンカーとかを呼んでみたいなご意見もいただいていたが、飲食の関係がコロナの関係もありまして、ちょっと実現が難しかったりしています。それから新図書館の契約がきちんと決まって方向性が見えてきた中で想定できる、先行して行える、何かイベント的なものを考えていこうとしておりまして、たちまちですね、現時点では、例年とそんなに大きく変わらない案としていますが、これから先に将来、近い将来を見据えて、もう少しにぎわいに繋がるようなことを考えていきたいというふうに内部の方では検討をしております。

委員：新図書館についてですね、やっぱり、まだ認知というか計画が出だしてから時間が経ち過ぎててですね、市民の方あんまり思ってる部分が少ないと思いますので、こういう機会を通じて、新図書館のPRというかですね、そういう道を広めるためにもなんかそういうことをしていただけたらなと思いますのでよろしくお願いします。

事務局：ありがとうございます。

会長：新図書館に向けた話ですね。ここではワークショップをいくつか開きますよね。その中でも論議されますが、にぎわい事業全体で話していくというのは非常に大事なことだと思います。いかがでしょうか。なんとなく嵐の前の静けさみたいな感じの年になりそうですね今年。来年はね。いかがでしょうか。ちょっと気にかかっているんですけど分館はどうなっているのでしょうか、分館分室は。

事務局：来年度でしょうか。

会長：はい、来年度。

事務局：来年度は分館の方は同じ、今年と同じような形で事業を行っていく予定です。

会長：はい。分館の動きも我々は見ておかなければいけませんのでね。いかがでしょうか。それでは来年度の事業についてはこの事業案を積極的に進めていただくと、いくつか伺いましたこの事業をきちんと進めてということでよろしいでしょうか、ありがとうございました。

では次の課題に参りたいと思います。次の課題はこれからの図書館サービスについてということでこれは継続審議みたいなものですのでね、去年からやってきた話をお話しいただきたいと思います。

—事務局より資料（2）「これからの図書館サービスについて（経過報告）」を報告—

会長：はいありがとうございます。市民とのつながりをどうつくっていくかということでこうした説明会を開いてもらっているわけですが、いかがでしょうか。我々が考えたことはちゃんと全部でていると思いますがね。基本的には3館体制。南館、北

館、そして中央館。3館体制プラス移動図書館で全市民に対するサービスやってみましょうと、それについて各自治会、自治区というのか、そちらの方ではどうでしょうかと聞いてきた。その結果、方向としてはご了承いただけたとそういうふうに理解していいかと思います。いかがでしょうか。

出てきた意見の中で保育所というのは面白いですね。今何力所くらいあるんですか市内で。

事務局：公立の保育所が統廃合していますので、少し減っていますが以前は。

事務局：20ちょっとあったと思いますね。

事務局：公立私立合わせて。

事務局：20以上あるはずなんですけど。それから幼稚園もある。

会 長：保育所っていうのはだいたい家庭のそばにあるわけですよ。こうした図書館サービスの出先に含まれるというのは結構考えられると思いますので。

事務局：はい。ぜひですね、移動図書館は日を決めて巡回するというのが基本なんですけども、各保育所、保育園とか、それから地域、福祉施設でイベント等がありましたらそちらへ行って、本に触れていただくようなことを予定してまして、具体的などころまではまだ計画はしておりませんが、少しでも図書館にお越しただいてない方にも本に触れていただくような取り組みをしていきたいと思っています。

会 長：はいありがとうございます。小さい頃から本に親しめば図書館をどんどん利用してもらえるようになると思いますので、ぜひ手を広げていただきたいと思います。他に皆さん何かございませんか。よろしゅうございますか。これまで話してきたこれからの図書館サービスについての方法を引き続き続けていただくことにしたいと思います。ありがとうございます。では3つ目の議題に参ります。伊賀市新図書館進捗状況について経過報告から始まってお願いします。

—事務局より資料(3)、(4)「伊賀市新図書館進捗状況について(経過報告)」を報告—

会 長：はいありがとうございます。資料3と4を使って説明いただきましたが、ご質問ございますか。新しい図書館のイメージは参考資料として配らせていただいておりますので、こちらも参考にしてもらえればいいかなと思います。

委 員：2点お願いしたいんですけども。まず図書館の配置イメージの方で、こちらの方は前回もご意見させていただきました、広さとかは則ってやっているとということで理解させていただいてよかったですでしょうか。

事務局：はい、新図書館基本計画を元に面積の方は確保できていることになっています。

委 員：総面積の部分でですね、一つ図書館だけで使う部分とこの複合施設によって共有で使う部分というのがあると思うんですけどその辺のすみ分けを教えてくださいです。

事務局：細かなところは現在設計をしているところですので、どの線が区切りですというのがこの図面をもってご説明できる段階ではございませんので、詳細につきましては

はまた後程のご説明、時点、時点でまたご報告させていただくときにお知らせできると思います。

委員：あと 2 つ目としてこのワークショップ、もう申込みが始まってると思うんですけども今どれくらいの応募をいただいているような状況ですか。

事務局：昨日の時点ですすね、だいたい 40 名、この定員近いくらいのお申込みをいただいているように聞いています。図書館の方にも届いてますけど、にぎわいパートナーズの方にもウェブで申し込みをされている方がいらっしゃいますので、その方とそれから上野図書館に紙で申し込みをされた方と合せて 40 名に近いことになっているように聞いてます。

会長：はい、いいですか。ワークショップはこの 3 回で終わるわけがないんでね。これから先も開かれますので、だんだん新しい図書館から離れてね、本当の図書館、新しい図書館が運営されていく中の話が変わっていくと。そっちの方が私は大事だろうと思ってます。いかがでしょうか。

委員：すみません。

会長：どうぞ。

委員：私もこのワークショップのチラシをいただいて、なかなか伊賀市の中でどれくらいの方が、新しい図書館が建つということについては伊賀市の中でとても大きな事業であって、伊賀市の市民のみなさんもきっと喜んでいただいている方ってたくさんいるんじゃないかなと思わせていただきます。そのことがどのくらい一般の方に周知されているかという辺りもすごく不安なところもありまして、近くにいる方については、私も宣伝をさせていただいていますが、このワークショップに関わっては、私も見せてもらってすごくいい取り組みだなと思わせてもらって朝から申し込みをさせていただいたんです。先ほどご質問ありましたけれども、どれくらい関心度っていうのが高いのかなというあたりはすごく心配ですし、また特に島ヶ原であったりとか阿山であったりとか大山田の方については図書館がなくなるということを前向きにとらえていただいている方、新しい図書館ができるっていうことを前向きにとらえている方もいらっしゃると思うんですけど、不安に思っている方であったりとか、ちょっとこのご意見の中にもある、憩いの場であるっていうあたりがなくなるということについては少し不安に思っている方もいらっしゃるんじゃないかなと思いますので、その方々にぜひとも周知していただけるように、またワークショップの中でもいろんな宣伝活動というか、そういうのがあればご安心いただけるんじゃないかなと思わせていただきました。それと学校でなんですけど、学校で本当に読み聞かせのボランティアさんが活躍いただく場面がすごく大きいんです。本当に子どもたち、先ほどおっしゃっていただきましたけれども、電子の本というかそれが 20 代、30 代の方には主になってきますけれど、やはり保育所であったりとか小学校であると実際に本を持って読むとか想像力を広げるというあたりについてはすごく意味のあることだなと思わせていただきますので、ぜひとも学校でも地域の学校でも移動図書館等を利用さ

せていただいて、またボランティアさんにも紹介もさせていただいて、本当にこう本を手にとって学習ができるような想像力が広げられるような、そんな活動がしていけたらなというふうに思わせていただきました。

質問じゃなくて意見です。

会 長：はいありがとうございます。いかがでしょうか。

事務局：ありがとうございます。とてもありがたいお言葉頂戴しまして、島ヶ原や大山田、阿山の図書館が今後なくなっていく地域の方にご心配をかけることなく、安心して新しい図書館や移動図書館を使っただけのような PR とかご説明というのは丁寧にさせていただこうと思っておりますし、それから学校や地域で活動されるボランティアさんとは今までよりもより一層連携を強くしながら、どうしても読書から遠のいていくような傾向があるかもしれませんけれども、そうではないというところで頑張っ取り組んでいきたいなと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会 長：学校読書として、移動図書館車の停まる場所かな。そのあたりでいかに市民に広げていくかですよね。いかがでしょうかね。

委 員：このワークショップの取り組みは今回初めてなのか。それとあとですねもう一つは 1 月 29 日と参加申込み日がきていると思うんですけど、地域としてはこういったところが多いとかそんなのわかりますか。

事務局：まず一つ目のご質問のワークショップが今回初めてかということなのですが、ワークショップは令和 3 年の 4 月に 2 回開催をしております、それはこの形態の事業が始まる前に事業者を募集する時の募集要項や要求水準書を作るために市民の方のご意見を頂戴しまして、それを元に要求水準書というものを作成しまして、事業者の募集を行いました。それを受けて事業者さんが応募してきてくれましたので今回昨年の 9 月に事業の契約の方が整いました。

今回はですね、事業契約後計画が進んでいく中で、この事業に市民の意見を少しでもたくさん取り入れることが可能となるように、これからの図書館を一緒に作っていきましようということで、今回は 3 回ですけども、これから先も継続してワークショップを行っていくというような流れでございます。

それから 1 月 29 日のワークショップ、3 回まとめてですけども地域の方はですね、どの地域の方がたくさん申込みされているかということはまだ現在のところでは把握はできておりません。といいますのもウェブで申込みされている方の情報が私どもの方に届いておりませんので、わからないんですけど、紙ベースで図書館に申込みされているものが 10 件くらいありまして、それを確認しましたところ地域はそんなに集中した形ではなかったように思います。

会 長：はい、いかがですか。ワークショップはいろんな人が来てくれるんですね。前回私も見せてもらいましたがね。下は高校生から始まりましてね。いろんな層がやってきます。そういった人たちの意見を聞くのは非常に大事だと思います。

この計画ではワークショップ来年度も何回か予定していますので。その中で中身

を深めるということをぜひやっていただきたいと思います。どうでしょう他の方もどうでしょう。

委員：この後、今月、亀山市さんが新しくオープンしますけど県内三カ所くらい新しくオープンする図書館があるのですごく期待して、楽しみにしていて、今日のこの資料もすごい楽しそうだなと拝見してはいたんですけど、今ワークショップされてたりであるとか、いろんな市民の方との話し合いで、すごく皆さん関心が今高いし自分たちの図書館をいいものにしていこうというふうに機運が盛り上がってみえると思います。さっき柴田先生の話にもあったと思うんですけど、実際図書館が開館してからどう図書館を運営していくかって中で図書館職員だけじゃなくてやっぱり市民のみなさんの協力もそうです、特に図書館の運営というかサポートになっていただくボランティアさんとの共同というのが非常に大事だなと思ってます。新しい図書館、人が集まる、にぎわいっていうところで、おそらく最初はやっぱり物珍しさでみなさん集まって図書館を利用していただけだと思うんですけども、他県の事例とかを見てるとやっぱり最初はいいんだけど、5年とか6年経っちゃうと入館者が減ってきて、さてどうしようかっていうところになってくる。コロナの時もそうだったんですけど、やっぱりここの図書館じゃないと体験できないことがあるとコロナが回復してもお客さんが戻ってきているところがあるので、資料とか場所を提供するというのももちろんなんですけど、新しい図書館、その中で、この図書館のこの資料を使って市民のみなさんが「何かできたら」、「何かしよう」と思うところを図書館からはプロデュースまでできるとすごくいいつながりを持って図書館を運営ができるんじゃないかなと思います。

やっぱり私、司書なので、司書の立場から言うところいう立派な建物、資料とか揃えて、あと司書が人と人、本と人を結びつける仕事だと思うので、そういうところももちろん考えてみえると思うんですけども、そういうところもうまく伝えながら運営していただくと全国のいい事例になるんじゃないかなと思って拝見していました。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございます。図書館のサポーター、ボランティアさんのサポーターという話でしたけれども、今回開催しますワークショップ3回、それからそのあとも継続して行うワークショップにご参加いただいた市民のみなさんには、将来的にはぜひ図書館のサポーターとなっていただきたいと思います。継続してずっと図書館に関わっていただきたいと思いますというふうに思っています。

興味をもって、関心があって図書館ワークショップに参加されている方々ばかりかと思しますので、そういった方々に一緒に図書館を作っていく、運営していくような立場になっていただけたらというふうに考えています。

会長：はい。いかがでしょうか。どうぞ。

委員：今日いただいた事業概要の中をちらっと見させていただいたんですけど、図書館の運営コンセプトのところ、「好きな場所で読書が」というくんだり、この辺、ここのスペースで読み聞かせ、子供たちの読み聞かせをする雰囲気があると思うの

ですが、年末でしたっけ、読み聞かせサークルの方が市長さんにそういうスペースをお願いすると要望されてたと思うんですが、そのスペース的なものはどういうふうになっていますか。

事務局：読み聞かせのスペースは、今この図書館はこの視聴覚室、このお部屋の方で読み聞かせを行っています。新しい図書館では読み聞かせ専用のスペースを設けていただくこと、そういう計画案になっております。

委員：それはあるんですね。

事務局：はい。

委員：ちなみにどのくらいの人数、スペース的に、具体的にはわからない。

事務局：そうですね。設計の具体的なところはまだお知らせする段階ではございませんので、また後程ということになります。

委員：だいぶ前にもお話させていただいたと思うんですが、読み聞かせももちろん頻繁にされていると思うんですが、それ以外に図書にまつわるいろんな例えば交流会っていうかいろんな催しもそこでできるような空間、小さなミニミニホールみたいな、スペースがあればいろんな方が利用しやすいと思うので、そういうホールが抜けてきているように、最初の段階ではそれが入っていたと思うのですがそれが今ないように思うんです。

事務局：この郵送させていただきまして、本日お手元にお配りしている資料ではとても大まかな形ですので、これをご覧いただくともしかしたら児童の読み聞かせですとか、幼児向けの場所とか児童コーナーがないんじゃないかなと言うふうにお感じになるかと思いますが、これはあくまでもイメージでございますので、新図書館基本計画と市の方から出しました要求水準書を基本として設計や運営の方は行っていくことになりますので、もう少し詳しいことはお知らせできる段階になりましたら説明をさせていただきたいと思います。

委員：そのそういったスペース、講演会とかいろんな交流会ができるようなスペースは一応考えてはいただけているということですね。

事務局：多様な目的でいろんな使い方ができるスペースっていうのは事業者の方は考えていると思います。

委員：ありがとうございます。それからこのワークショップ、人数がもし余っていれば参加したいなと思ったんですけどよろしいでしょうか。あとでお申込みさせていただいても。

事務局：この協議会の委員さんには傍聴という形でお席をご用意させていただこうと思っておりますので、お時間がよろしければ傍聴の方でご参加いただきたいと思います。

委員：よろしくをお願いします。

会長：はい。私の方からもみなさんに積極的に参加してほしいなと思います。市民の考え方をぜひしっかりと受け止めて、これの実現に進めていきたいと考えています。いかがでしょうか。どうぞ。

委員：先ほどの館長さんのお話の中で、ワークショップの方に参加された方も申込みされ

た方も今後の図書館の運営のボランティアさんの方に取り込んでいきたいということでお話があったと思うんですが、前回の会議だったか読み聞かせのボランティアさん高齢化が進んでとかっていうお話があったかと思うんですね。読み聞かせボランティアさん、どうしても車を使って学校に出向いたりというところで運転できなくなったらボランティア活動ができなくなるとか、声がちょっとでなくなったら読み聞かせできなくなる活動やめてしまう、諦めてしまわなければならない方もあるかと思うんですが、そういう方も図書館の整理ボランティア、図書の整理ボランティアさんであったり、装丁のお手伝いをしてくださるボランティアさんであったり、他のこのボランティア活動のお手伝いに行ける作業の作業ボランティアさんのようなところで活動いただける場所、場所というか活動いただける場所は提供いただいたら図書館に関心を持って関わって下さる方が増えるんじゃないかなと思います。

会 長：世代交代ですね、ボランティアの。養成講座は一応予定はしていますけどね。

事務局：ありがとうございます。読み聞かせボランティアさんの高齢化っていうのは以前から課題になっていまして、今年度ですね読み聞かせボランティアの連続講座っていうのを開催しまして、育成講座なんですけども、新たなボランティアのグループを一つ誕生させることができましてですね、秋ごろから自立して読み聞かせの会をしていただいております。今後もですね、こういう育成の取り組みっていうのは続けていきたいと思っておりますし、以前から生涯学習課の方ではボランティアの育成の研修会というのをずっと開催しております、そちらに参加された方、単独で参加される方が多いんですけども、その方々にぜひ、上野図書館のボランティアにつながるような形で生涯学習課と連携しながら情報を共有しながらボランティアさんを増やしていこうという方に今取り組んでいるところでございます。それから高齢化のために声が出にくくなったりっていうとか車に乗れなくなったりという方のためにということでご提案いただきました新図書館の方で、言い方が当てはまるかどうかわからないんですけどもコンシェルジュのような入口で迷われているお客様には図書のコーナーの、あの辺に児童コーナーがありますとかいうご案内ですとか、それから環境整備とかでもボランティアさんにご協力いただくと大変ありがたいなというところで、本に関わるだけではなくて図書館に関わる何か活動をしていただけることがあればそういうことも市民の方と連携しながら図書館を作っていくってことにもなりますのでそういうところもまたみなさんと一緒にしていきたいなと思っています。

会 長：はい、いかがですか。

委 員：先ほどのからみなんですけど、ワークショップのこのチラシをはじめ家の方で回覧とか広報とかで来た時に、このテーマを見た時にすごくいいなと思って上手に考えてくださってあるな、参加したいなというのが本当に感想だったんですけど、今まではどうだったかわからないんですけどここに書いてくださってあるこの3回の日がち全部日曜日なんですよね。平日用の日ちっていうのは今まででも過

去にあったんでしょうか。そしてまたこれからも平日でしか参加できない方もきつといらっしゃると思うんです。子育て中の方でも学校とか保育所に預けてその間の時間だったら参加できるっていう方もいるので、幅広い形での日にち設定っていうのとかテーマとかを作って、いろんな方が参加していただけるようにしていただけたらありがたいなって気もします。何かの説明のところでも第3金曜日って決めてっていうお話もありましたけども、第3金曜日だけは難しくて、例えば木曜日だったらっていう方もいろんなお仕事を持っての方がいらっしゃるの、あんまり固定しないで考えていただけたらありがたいかなと思います。

ワークショップでこの新しい図書館についての意見とかも吸い上げて下さるのもありがたいんですけど、一般市民からしたらワークショップで積極的に行かれる方はもちろん意見を言われるかと思うんですけど、大体が意見を言うこともなく例えば図書館が新しくできてきて、良い所ができたな参加しようと思って行って、その使っていく中でだんだんだんだん、あ、ここがこうだったらいいなというのが単純的に出てくると思うんです。でもここがこうだったらいいのになって出てきてもその意見をじゃあどういふうに言っていっていいのっていうところが、もうちょっと受け皿のところで作っていただけたらありがたいかなというのがありまして、空間が決まっている中でいろんな場所とかもこのイメージ図のように考えているかと思うんですけど、一番の図書館に行かせていただけて思うところは椅子とか机とか、そこが一番本を読む上で座るところがなかったらちょっと加減悪いなっていうので参加しなかったりとか、そういった細かい小さいことなんですけど椅子がたくさんあったらいいなって後で思うんじゃないかなって思ったりもするので、そういうこととかもまた後々の受け皿として考えていただけたらありがたいかなと思います。

会 長：はい、ありがとうございます。いろいろ意見が入っていますね。

事務局：ありがとうございます。ただいまいただきました「ご意見をいただく受け皿」ということで、また今後も運営が始まりました後もそういうご意見をいただく方法は考えたいと思いますが、現在図書館の方ではご意見をいただく紙をご意見箱を設置していますのでそういった形になっていくかなと思います。

それから席のことですけれども、椅子とか机とかそういう座って本を読める場所っていうのは、新しい図書館では十分確保させていただく予定をしております。

会 長：ワークショップをハイトピアだけじゃなしにね、出張ワークショップをやってみるとか。それこそ支所単位で考えるくらいのをね。

事務局：今いただきました、今回3回が日曜日ばかりだったっていうところですけど、おっしゃる通りでして、平日とかそれから夜とかしかお越しいただけない方も、もしかしたら見えるかもしれないので、そういったことも参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

会 長：ワークショップ新しい形を考えるとというようなことで。来年度もいろいろ何回か考えてますのでね。そのあたり少し反映させていけばいいかなと思います。

いかがでしょうか。

委員：すいません。今日いただいた資料の中にまだちょっとこれ検討中のものもありますと書いていただいているんですけども、図書館の運営方針のところ具体的にどこかの一例として電子図書館サービスと書いてあって、すごく興味があるんです。私先ほど本は手に取ってっていうふうに言わせていただいたんですけど、決して電子図書というのを、そこを否定しているわけではなくて、学校の方でも今タブレットの学習が一人一台端末ということですのですごく進んでいまして、子どもたちも、それから教師も本当にタブレットを使うということで、ずいぶんとここ3年でコロナのこともあって進んできたなというふうに思わせていただいております。この電子図書館サービス、市民の皆様へ図書環境をどんな環境でも提供しますと書いてあるんですけども、これどんな感じで進んでいくのかなというのが興味があるので教えていただけたらと思います。

事務局：現在上野図書館では電子図書というのは導入しておりませんので、具体的にどこかを今ここでこういうふうになりますというのがちょっとお伝え出来ないんですけども、例えばお体が不自由な方でお車に乗れない方とかでもお家の方で、いつでもどこでもということですけども、図書利用カードを作っていただきましたら、図書利用カードには個人の番号がありまして、ご存じかと思いますが、その番号で申し込みをされましたら図書館に来て本を借りるような形でご自分のパソコンやスマートフォンとかにその本が借りた状態で読めるようなことになってくるように聞いていまして、その時にはパスワードの付与とかになるのかなと思うんですけども、お家の方にいらして例えば車椅子を使われている方でしたら気軽にこちらにお出かけいただくことができなかつたりしますので、そういった方にはご利用いただけるのかなと思っています。ちょっと具体的なことがまだお伝えできませんが。こういう感じで予定しております。

会長：これから先は電子図書館サービスというのは本当に出てきますね。今すでに国会図書館なんかもやってるんですね。それぞれの家で国会図書館の資料を見ることができますから。この伊賀の図書館もそれに対して参画していますからね。県立図書館もやってますよね。

委員：そうですね。今おっしゃったのはご自宅で国立国会図書館がデジタル化してるので見れるのと図書館限定送信分っていうのがあるんですけども、その二つで今国会図書館でやってますね。

会長：今やっている伊賀のデジタルミュージアムもね。

委員：そうですね。

会長：一種のデジタル図書館ですね。これから先はそういう方向はどんどん必要になってくるし、学校図書館との連携も大事なんですね。電子図書館は。

委員：今ちょっと話に出てたところで、図書館サービスが休館となると書いてありますけども、これそのこの場所での図書館はいつまでやって向こうがいつから始まるっていうのは分かっているんですか。

事務局：新しい図書館の方のスタートは2026年の4月の予定でございます。こちらがいつから休館になるか、できるだけ休館期間は短くしたいと思いますが、いつからというのはまだ決定しておりませんので、蔵書の数からしたら、どのくらいの期間が引越しに必要かというのを、これから考えまして早いうちに休館のお知らせ等は市民の皆さんにさせていただきたいと思いますが、想いとしましてはなるべく休館期間は短くしていきたいと思っています。

委員：はい、ありがとうございます。あとですね、先ほどこのサービス、これからの図書館サービスということで、移動図書館のルートや停止ポイントということでご意見が出てるとは思いますけども、あくまでもこれ3館運営となったことによって、ここの残りの3地域というのは館がなくなるということになりますので費用対効果で言えばですね、6館体制ですることに対してとの費用対効果と考えていただいていますね、これしたらちょっと高なるから10個作らなあかんところ5個にしようとかそういう考え方ではなくですね、やっぱりそこに館を維持するということに対してからの費用として考えてですね、なるべくご要望に沿ってやっていただけるよう考えていただけたらなと思います。

あとですね、このワークショップこれ私も前回の時にオブザーブさせていただいたんですけども、前は全3回のところ最後の一番意見がよく出てですね、一番大事な部分がコロナということで中止になってですね、情報の抽出ということでみなさんからの意見をもらった段階で終わってたと思うんですけど、その時の意見も今回ちゃんと含めましてですね、この1、2、3回が前回のも活かした形で結果としてつながるように運営していただきたいというのが一つと、協議会のみなさんもですね、私も行かせていただいてオブザーブさせていただいてですね、やっぱり協議会の委員っていうのは年齢がやっぱり高い、高校生であったりとか若い人がいない、そしてまた特にお年をいった方もいないということですので、考え方がですねどうしても偏るといのが、そういうので行って本当感銘を受けるような意見がたくさん出ていましたので、なるべくオブザーブしていただいてですね、そういう意見を聞いていただいて今後の協議会の運営につなげていただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

会長：そういうことでみなさんよろしくお願ひしますね。はい、いかがでしょうか。結構前向きにいろいろご意見いただいておりますが、これからのことを考えますとやっぱり図書館サポーターをどう作っていくかですね。意識的に作るというのをぜひ考えていただきたいと思います。サポーターが多ければ地区とのつながりなんかでもきやすくなりますね。ぜひやっていただきたいと思います。ではこの資料3、4、を的にした議論はこれくらいでよろしゅうございますか。方向としては今の流れを深めていただくということをお願いしたいと思っています。今日用意しております議題は以上でございますが、皆さん方考えてることはございますか。まあなんとなく計画が見えているんだけどはっきりしていないという難しい立場になってはいますが、来年度はそれをどんどん深めていくという機会がありますので皆さん方の協

力を引き続きお願いしたいと思います。今日の協議会はこれくらいでよろしゅうございますか。それでは事務局から何かございますか。

事務局：失礼いたします。ワークショップにご参加いただく場合の駐車場につきましてご連絡させていただきます。

事務局：失礼いたします。ワークショップの開催につきましての駐車場ですけれども、関係者の皆さまの駐車場といたしまして桃青の丘幼稚園の駐車場を借用させていただいております。もし、ご参加、傍聴いただける際はですね桃青の丘幼稚園の駐車場の方をご利用いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

会 長：はい。他に何かございますか。なければ協議会を終わりたいと思います。ありがとうございました。

事務局：失礼いたします。最後に教育長から挨拶を申し上げます。

事務局：皆さんありがとうございました。活発にご意見いただいて本当に嬉しく思っています。これまではですね、いろんな協議会、図書館協議会開かしていただいた中でですね、こういう図書館、いろんなご提案いただいて、なかなかですね、それが実現難しくてですね、ご質問をたくさんいただく中でどういう図書館があるべきかご議論いただいたんですが、今こうやって決まってきました、会長の方からありましたが、前向きにですね、いろんなご意見を具体的に今日出していただけたので、私たちもそのように進めていきたいと思えますし、たくさんの方からもっと声を聞きながらみんなでつくるような方向でしていただけたらというようなことも随分いただいておりますので、今回、前回に引き続きですね、前回の要望はもう要求水準の方に入れさせていただいておりますし、今回もですね、また新たに来ていただいた方は重なる部分もあると思えますし、更にそれに積み重ねて「こうであるべき」ということのご意見もいただくというふうにワークショップの方も思っておりますので、今回の3回のワークショップを元にもう少し具体的に、「こうあったらいいのにな」ということを市民の方にイメージしていただいたりご意見をいただくという場を設けていきたいというふうに思えますし、この予定ではですね、そのあとですねワークショップをしながらみんなでつくる図書館になっていくというようにして参りたいというふうに思っています。

また皆さん、今度もできるだけご参加いただくということでございますし、その方のお声も聞きながら、またここでも協議いただいて図書館、みんなでつくる新しい図書館に向けてですね、ご意見をいただけたらというふうに思っています。逐一また、今度は6月頃を予定しておりますけれども、報告もさせていただきながら皆さんのご意見もいただいて、進めて参りたいと思います。今日は本当にありがとうございました。